

飯能西中だより



# 天覧山 12月号

飯能市立飯能西中学校  
学校だより  
令和4年度 第9号  
令和4年12月1日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

皆様に支えら今年もあと1ヶ月となりました

## いろいろな立場や考え方を前に思うこと

校長 中村 公一

年末を迎え2学期も残すところあと3週間ほどとなりました。コロナウイルス感染症の勢いが収まらない中で迎える年末は3度目になります。3年前と比べると年ごとに外出や会食などの制限はなくなってきているものの、新型コロナウイルス感染症に効く画期的な治療薬は未だ開発されておらず、不安は完全には拭えていません。最近では医療の逼迫や経済の停滞を防ぐために新型コロナウイルス感染症を季節性のインフルエンザと同じような5類相当に位置づけるという話も聞こえて来ていますが、特効薬が見つかっていない以上、罹患したら命に関わるような事態になりかねない人にとってみれば心中穏やかではないでしょう。私にもその気持ちが痛いほどよくわかります。私の母はちょうど2年前にこのコロナ禍の中で亡くなったのですが、当時、母は治療方法の見つからない指定難病を患っており、免疫抑制剤を投与されていました。ですから新型コロナウイルス感染症に罹ることは命を落とすことを意味していました。介護のためとはいえ私がウイルスを持ち込むことがあってはなりません。そのため、仕事柄、人との接触が避けられない私は、母を直接介護することができませんでしたし、それどころか面会することもできませんでした。最期を看取することもできなかったことが未だに悔やまれてなりません。ですから新型コロナウイルス感染症は風邪みたいなものだという考え方にはどうしても素直に傾けない自分がいるのです。しかし、その一方で早く経済が戻らないと食べていけないという人がたくさんいるのも事実です。母が入院している病院で会計の手続きを待っていたときのことで。たまたま隣に居合わせた人と親の介護のことで話をするようになったのですが、話しているうちにその人の感情が高まってきて「親には長生きしてもらいたいけど、このままじゃ、コロナに罹る前に親子共々生きていけなくなってしまう」と目を真っ赤にしながらいっていたのが忘れられません。人それぞれに苦難がありそれでも懸命に生きているのだということが深く心に刺さったように感じた一瞬でした。学校には様々な家庭の子が集まります。一人一人にどのように寄り添えるかその責任を痛感します。

### 皆さんにとっては全く関係が無いことなのでしょうか

生徒の皆さんへ

81年前に日本は世界中を相手に戦争を始め、その後の約3年半の期間で三百数十万人の命が奪われたという史実を知っておかなくてはいけないと昨年もお話したのですが覚えているでしょうか。81年前の12月8日、日本軍はハワイにあるアメリカ軍基地を一方的に攻撃し、アメリカ側には2千人以上、日本側には60人以上の死者があったのですが、それにもかかわらず、当時の日本では戦争が始まったことを祝う催しが各地で開かれたのです。それから半年も経たぬうちに、東南アジアの各地で戦闘を続けた日本軍は多くの戦死者を出し、物資も不足して悲惨な状況になりつつあったのですが、それでも戦争をやめようとはせず、より多くの若者を戦場に送り込んだのです。結局、広島と長崎に原子爆弾を落とされるまで戦争をやめられませんでした。これは、当時の日本人が愚かだったというような簡単なお話ではありません。当時の日本にも良識ある人々はたくさんいたはずですが、つまり、このように戦争というもの一旦始めてしまうと誰にも止めることが出来なくなってしまうものなのです。くしくもこのお話をした後でロシアとウクライナで戦争（ここではあえて戦争と言うことにしました）が始まり、未だに終結の兆しは見えていません。このことを自分事として捉え、将来みなさんが自分たちの子どもにきちんと伝えられる大人になってほしいと思います。

## アンコンシャスバイアス（校長講話から）

私たちが物事を判断するときには、それまでに自分が得てきた知識や経験をもとにして考えます。しかしその知識や経験は、あくまでも自分が見聞きしただけのものであるわけですから、場合によっては人より偏った見方であったり、自分勝手な思い込みであったりすることが意外と多いものなのです。このように私たちが無意識のうちに持ってしまっている偏ったものの見方や思い込みのことを「アンコンシャスバイアス」といいます。アンコンシャスバイアスは誰にでもあるものなのですが、気をつけないと人間関係を損ねることにつながったり、自分自身の成長を妨げることになってしまいます。

例えば人や組織に影響するものだと、インターネット利用などで見られる傾向が特にそうだと思うのですが、つつい自分都合のいい情報ばかりに目が向いてしまう確認バイアスや、自分は大丈夫と都合のいいように思い込んでしまう正常性バイアスというものがあります。また周りと同じように行動してしまいたくなる集団同調性バイアスなど、無意識のうちに私たちの行動パターンになっているものがたくさんあるのです。

アンコンシャスバイアスの中には知らず知らずのうちに私たち自身の成長を妨げているものもあります。本当は能力があるのに、「どうせうまくいきっこない」と自分や人の能力を過小評価してしまうとか、「ここまでやってきたのだから今さら変わらない」というように、はじめから諦めてしまうようなことはないでしょうか。また、私たち大人が仕事の場面でよく感じることもあることだと思うのですが、誰かから何か新しいことを始めようとして提案されたときに、それが困難をとまなうことが予想されるものであるときには、「できれば今のまま変化を避けていきたい」という現状維持バイアスが働くこともあります。これらにとらわれたままです。そうならないように皆さんにお勧めするのは、決めつけの言葉や押しつけの言葉を使わないことです。いままで100回やってダメだったとしても、101回目はうまくいくかもしれません。いままでやった10人全員がダメだったとしてももしかしたら11人目は大丈夫かもしれません。

「どうせムリに決まってる」「みんなこういうものだ」「ふつうはそういうものだ」という決めつけのことばや、「こうに決まっている」「こうあるべきだ」「こうでないとダメ」という押しつけの言葉は、むしろ私たち教員に多いかもしれません。自分自身についての反省の意味を込めて、決めつけや押しつけの言葉に注意をしていきたいものです。

## ○ 12月の主な行事予定 ○

1日（木）2年生車椅子体験授業	16日（金）1・2年、とうのす学級保護者会
2日（金）1年生PTA学年行事	19日（月）4時間授業
国際交流のプログラムを予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら延期することとしました。	21日（水）4時間授業 給食最終日 大掃除
9日（金）4時間授業	22日（木）3時間授業
12日（月）3年生愛育教室	23日（金）2学期終業式
13日（火）3年生三者相談（16日まで）	1月10日（火）3学期始業式
	11日（水）給食開始 自転車点検

### 人や組織に影響するバイアス

- 先入観や固定観念で相手をみる（ステレオタイプ）
- 私は大丈夫と都合のいいように思い込む（正常性バイアス）
- 自分に都合のいい情報ばかりに目が向く（確認バイアス）
- 権威のある人の言うことに間違いはないと思い込む（権威バイアス）
- 周りと同じ同様に行動してしまいたくなる（集団同調調整バイアス）

### 自分の成長や変化に影響のあるバイアス

- 過去ばかり美化してとらわれてしまう（バラ色の回顧）
- ここまできたのに 今さら変わらない（サンクコスト効果）
- 今がいい 変化を避けたい（現状維持バイアス）
- 能力があるのに過小評価してしまう（インポスター症候群）

### 決めつけや押しつけの言葉に注意

- | • 決めつけの言葉 | • 押しつけの言葉 |
|-----------|-----------|
| 普通そうだ     | こうに決まってる  |
| みんなこうだ    | こうあるべき    |
| どうせムリ     | こうでないとダメ  |